

Injury Alert (傷害速報)類似事例

チャイルドロック機能付ウォーターサーバーによる喉頭熱傷

(No.75 チャイルドロック機能付ウォーターサーバーによる熱傷の類似事例 4)

事 例	年齢：1歳4か月 性別：男児 体重：9.0kg 身長：77.5cm	
傷害の種類	誤飲、誤嚥、熱傷	
原因対象物	ウォーターサーバー	
臨床診断名	口腔・咽頭・喉頭熱傷	
医 療 費	1,051,980 円	
発 生 状 況	発生場所	自宅の台所
	周囲の人 ・状況	祖母、兄（6歳） 祖母は事故をみていないが、兄は横で事故を目撃していた。
	発生年月・ 時刻	2019年9月X日（月） 午前10時20分
	発生時の 詳しい様子 と経緯	ウォーターサーバーのレバーは、床から68cmの高さにあり、普段から本児は自分でウォーターサーバーから水を入れて飲んでいました。本人が、コップにウォーターサーバーから直接お湯をくみ、そのまま勢いよく飲んだところを兄が目撃していた。お湯の蛇口には普段カバータイプのチャイルドロックが装着されているが、本事例発生時は偶然祖母がお湯を出した後、チャイルドロックのカバーを戻し忘れていた（なお、祖母は普段から同製品を使用しており、使用に不慣れな訳ではない）。飲んだ直後に吐き出し、涕泣したため、祖母がその状況に気付いた。その後頻回の嘔吐と流涎があり、時折咳嗽を認めたため、受傷約1時間後に近隣医療機関のERを受診した。

治療経過と予後

受診時の心拍数は 169 回/分、酸素飽和度は 97%（大気下）であった。呼吸数は涕泣のため計測できなかった。受傷約 4 時間後に実施した喉頭ファイバースコープで、喉頭の著明な浮腫を認めたため、間欠的なアドレナリン吸入、デキサメサゾン静注、及び抗菌薬の静注を開始した。しかし受傷 8 時間後より吸気性喘鳴が出現し、呼吸努力が増悪したため、気管挿管(内径 3.0mm、カフなしの気管チューブを使用)・人工呼吸管理を開始した。X+1 日に高次医療機関の PICU（小児集中治療室）へ転院、搬送された。転院当日に施行された気管支鏡、上部消化管内視鏡では、声門下、食道・胃に熱傷を疑う異常所見はなかった。その後、断続的に喉頭ファイバースコープを行い、喉頭粘膜浮腫の改善と挿管チューブのリークの出現を確認し、X+4 日に抜管した（経過中に内径 3.0mm、カフつき気管チューブに変更）。その後も呼吸状態は安定しており、経口摂取も徐々に可能となった。X+8 日に前医へ転院した。前医での外来通院でも特筆すべき後遺症を認めず、6 ヶ月程度で終診となった。